

第3回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会 会議録

1 日 時 令和4年(2022年)10月14日(金) 19:00~20:40

2 場 所 大津コミュニティセンター 学習室4・5・6

3 出席委員 9人

4 事務局等	教育総務部	部長	古谷	久乃
	学校教育部	部長	米持	正伸
	教職員課	課長	平石	拓
	学校管理課	課長	二見	裕
	教育指導課	課長	川上	誠
	教育政策課	課長	飯田	達也
	教育政策課	主査	大堀	圭輔
	教育政策課	担当者	武田	裕史

大津行政センター 館長 望月 正彦(オブザーバー)

横須賀市立小中学校適正配置審議会 委員 出石 稔

5 傍聴者 11名

6 議事内容

○飯田教育政策課長(事務局)

皆さま、こんばんは。定刻となりましたので、第3回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会を始めます。

会議を開催する前に、傍聴及び会議録について確認します。本協議会は、「地域別小中学校教育環境整備協議会の傍聴に関する実施要領」に基づいて、傍聴を認めています。また、会議録については公開します。会議録作成のために、録音します。

委員の皆さま、よろしいでしょうか。

〈 各委員から異議なしの声 〉

○飯田教育政策課長（事務局）

地域別小中学校教育環境整備検討協議会設置要綱第4条第2項の規定によりまして、本協議会の開催に当たりましては、半数以上の委員の出席が必要となります。

本日は、委員11名中、9名の出席いただいておりますので、本協議会につきましては成立していることを報告させていただきます。

それでは、これより進行を委員長にお願いしまして、議事を進めていきます。委員長よろしくお祈いします。

（委員長）

それでは次第の1「第2回協議会での整理について」で、事務局から説明をお願いします。

≪ 「第3回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会」の資料1から資料6までについて事務局から説明 ≫

（委員長）

ただいま事務局から説明がありました内容について、ご質問やご意見がありましたら、挙手でお願いします。

（委員）

資料5の防衛大学校と海上自衛隊の土地についてですが、現在の国の動きはどうですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

こちらは入札予定の物件となっております、ホームページに掲載されています。動きについては特にありませんでした。

（委員）

資料6の17ページにある光洋小学校の教職員へのアンケートについてです。

ここでは、「反対」・「どちらかといえば反対」と答えた割合が合計で40%となっていましたが、どのような理由で反対だったのかを知りたいです。

○古谷教育総務部長（事務局）

記憶している範囲での話ですが、当時の光洋小学校はかなり小規模であり、統合により学校の規模が大きくなることで、児童が学校生活についていけなくなることを不安視する意見がありました。

また、今回の設問は統合前の気持ちを伺ったものであり、統合前にさまざまな不安を持っていたということで、統合に反対する意見が目立っていたと思います。

(委員)

前回の協議会で、他の小学校の学区の一部を走水小学校区に編入することにより、走水小学校の規模を大きくすることも方策として考えられ、実際にシミュレーションを行ったと聞きました。その中で、通学距離の遠距離化、近隣の小学校の小規模化などの課題があるとの説明もありましたが、このシミュレーションの結果は、ホームページ等で公開しているのでしょうか。

○古谷教育総務部長（事務局）

あくまで内部で行った検討の結果をお伝えしたものであり、外部へ公開しているものではありません。

(委員)

こうした方策を検討する動きはあったということですね。

○古谷教育総務部長（事務局）

以前、他の地域で小中学校の統合を行っていた時期において、走水・馬堀地域も含め、他の地域でも同様の課題を抱えていました。こうした対象校の選定を検討する過程で、さまざまなシミュレーションを行ってきた経緯があります。

(委員)

このような問題に関しては、地域の皆さまと在校生の保護者の意見が大きな割合を占めると思います。この方策の検討結果を公開しなかったことが疑問です。

○古谷教育総務部長（事務局）

本件に関しては、検討の俎上に載せる前の段階での検討でした。

仮に検討の対象校にすることになれば、今回と同様の形式で協議会を開催し、さまざまな方々からの意見を伺いながら検討を進めていくことになります。

しかしながら、当時の走水小学校や馬堀小学校について具体的な検討段階に入ることは難しいと判断しましたので、公表していません。

(委員長)

他に意見はございませんか。

ないようでしたら、次第の2「教育環境整備の検討について」に移りますので、事

務局から説明をお願いします。

« 「第3回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会」の資料7について
事務局から説明 »

○大堀教育政策課主査（事務局）

ここで本日欠席している委員からご意見を頂いていますので、この場で紹介します。

“学校を統合した場合、通学などの問題が出てくると思います。その中で、子どもを中心に考えたときに、ある程度の同学年の生徒数がある中でさまざまな考え方に接することでコミュニケーション能力が身につくのではないかと思います。もちろんそれを苦手とする子どももいると思いますが、少人数では、それが得意な生徒の意見に他の生徒が促されることもあると思います。高学年になれば、修学旅行等の集団活動で盛り上がります。学校では、子どもたちがデザインしたクラスTシャツで揃え、走水小学校前の海で貝拾いをしたり肝試しをしたりするなど、子どもたちから楽しい話をたくさん聞きました。こうしたことについて、保護者の方々からも肯定的な声をたくさん聴きました。さまざまな問題が解決し、走水地域や馬堀地域の子どもたちが一緒になり、このような集団活動などを通じて楽しい学校生活を送れる日が来ると良いと思いました。”

頂いた意見については、以上となります。

（委員）

先日、走水小学校で教育環境整備計画に関するアンケートを取りました。

無記名方式で、教育環境整備計画を知っているかどうか、本計画を読んだかどうか、そして統廃合についての意見の3点について質問しました。

まず、37世帯のうち31世帯から回答を頂きました。その中で、28世帯が本計画を「知っている」と回答があり、さらに「読んだ」と回答したのが24世帯で、「読んでいない」と回答したのが7世帯でした。

次に統廃合については、肯定的な意見が7世帯、否定的な意見が13世帯であり、残りの11世帯は分からないという回答でした。

回答内容については、少子化で仕方がないとする意見、統合により友達が増えることを歓迎する意見、そして、財政負担を理由に統合はやむを得ないとする意見がありました。

一方で、走水小学校は少人数で一人一人に目が行き届いており、学年を超えて子どもたちの仲が良い点が特徴です。また、走水地域を生かした行事教育が行われており、小学校を統合した場合は、走水地域の衰退につながるという意見がありました。

小学校が地域と一体となって地域を支えている実態があるので、教育の面だけでなく地域の面からももう少し考えていただきたいと個人的には思います。

(委員長)

ありがとうございました。

それでは、事務局から説明のありました各案について、一つずつ質問と意見を伺いたいと思います。

(委員)

事務局による提案を見る限りですが、事務局は統廃合が一択という考えですか。当初の協議会の場では、事務局からの案がもう一つあったと思いますが、いかがでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

本協議会資料は、今まで協議会に出てきた意見を事務局が確認し、まとめたものです。再度確認し、不足している事項がありましたら修正いたします。

(委員)

今は案1と案1の参考についての質問ですか。それとも案2も含めたものですか。

(委員長)

案2についての質問は、案1に関する質疑応答の後に行います。

(委員)

案1と案2を合わせた形にした方が議論しやすいと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

協議会委員の皆さまが議論しやすい形で進めていただけて構いません。

(委員長)

それでは、案1、案1の参考、案2の3つについて、質問や意見を伺いたいです。

(委員)

小規模特別認定校制度の説明が抜けているように思いますが、それについては検討

していないのですか。それとも先ほどと同様に、内部で検討されたのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

本制度については、意見として頂いていました。

今回で言いますと、小規模特別認定校として走水小学校を残すことが案3になります。こちらについては、議事録として記録するとともに、本協議会で頂いた意見として残します。

（委員）

学校教育に携わる者として、子どもたちの学びについてご理解いただきたいことがあります。

一昨年、小学校と中学校の学習指導要領が改訂されましたが、これは主体的・対話的で深い学びを子どもたちに身につけさせる趣旨で行われました。

ここでの主体的とは、子どもたち自身がしっかり考えることで、対話的とは、教師との対話の他に、子ども同士で考えを出し合うことを通じて学びを習得しようというものです。教師が一方的に教える方式が従来の学び方であったのに対し、今回の学習指導要領は、子どもたちが意見を出し合いながら解決していくという学び方になっています。

本校でも、生徒のグループ学習を中心に授業を展開し、できるだけ教師が生徒に教え込むようなスタイルは止めていくという検討をしています。

現在、1グループを4人として複数のグループを作っていますが、意見を出し合うという点で考えたときに、少人数の学級ではこのような学び方が難しくなります。

また、児童同士あるいは教師と児童の間でのさまざまな触れ合いの中で、時には双方が衝突することもあると思いますが、こうした経験を通じて得られる力が、子どもたちには必要になると思います。

（委員）

今の意見を聞き、小規模校で育った自分を否定されたような気持ちになりました。

当然、そのような面もあると思いますが、それだけではないことを本協議会の場で何度も話してきましたし、事務局にも学術的な根拠について伺っても根拠はないという話も頂きました。

（委員）

小規模校の環境は良くないので改めるべきだという意見がありましたが、小規模の小学校から中学校へ進学したときに大きなハンディキャップがあったかどうか、委員の皆さまに伺いたいです。

(委員)

私はそうしたハンディキャップはありませんでしたし、自分の子どもについても全く問題はなく、むしろリーダー的な存在になっていたと思います。

(委員)

小規模校の環境で育っても、中学校などの大きな世界に出たときのハンディキャップはほとんどなかったと解釈して問題ないわけですね。少なくとも、小規模校に行ったから中学校あるいは高校に進学し、社会不適合者になるというようなことはないかと解釈して良いと思います。

(委員)

私もこうしたハンディキャップは感じませんでした。

昔の話になりますが、小学校時代、自分が中学校の新入生の代表として生徒会長に挨拶したことがありました。緊張して頭が真っ白になりましたが、クラスの中でちやほやされた記憶があります。

中学時代は、同級生の中でもブルーカラーになる人とホワイトカラーになる人が混在する環境ではありましたが、高校では、学生のレベルがある程度一定となります。

そうした中で、自分なりに一步一步成長し、教育を受けてこられたと思いますし、小規模校でも問題ないと思います。

(委員)

参考までに、委員が小規模校（走水小学校）に在籍していた当時の学級数や1学級当たりの人数を教えてください。

(委員)

1学年に1学級でした。

私が在籍していた当時は、1学級当たり40人でした。

ちなみに、自分の子どものおときは1学級当たり10数人でした。

(委員)

下の子どもが未就学児であり、上の子どもが馬堀小学校に通っています。

現状、馬堀小学校は1学年に2学級ありますが、学年によっては1学級となるところもありますし、1学級当たりの人数も20人前後になっています。この状況を踏まえると、馬堀小学校も小規模校に当てはまるのではないかと思います。

現在、走水小学校と馬堀小学校を統合する話が出ている中で、走水小学校が小規模だからいけないことはないと思いますが、走水小学校の1学級当たりの人数が10人以

下の学年が多いようです。

たとえ走水小学校が馬堀小学校と統合したとしても、委員が在学していた頃よりも小規模になるかもしれないという現状があると思いました。

(委員)

今、馬堀小学校の学級数の話がありましたが、そもそも1学級は何人までですか。

○大堀教育政策課主査(事務局)

学年により異なります。低学年が35人で、それ以外の学年が40人です。

このため、1学級が36人以上または41人以上になると2学級に分かれることになります。

(委員)

昔は1学級に50人程度ととても多かったです、現在はこのような形になっているということですね。

(委員)

走水小学校についてですが、自分を含めて子どもたちは、地域の皆さまをはじめ、海に携わる教育、産業に携わる漁師の教育を通じて育てられたと思いますし、とても良い環境で学ばせてもらったと思います。

あくまで参考の話ですが、先日、大塚台小学校の教員から遠足の一環で漁師の仕事等を見学させてほしいとの連絡を受けました。見学の理由を聞く中で、大塚台小学校に通学していても海を見たことがない子どもがいるとのことでした。

横須賀は自然が豊かであり、海と山もありますので、多方面で教育をうまく行っているという話も頂きました。

○大堀教育政策課主査(事務局)

補足ですが、先ほどの委員の皆さまからのご意見の中で、小規模校を卒業すると社会不適合者になる、社会性が育たないというものがありましたが、教育委員会としてそのように考えているわけでは決してありません。誤解を招くおそれがありますので、この点について訂正させていただきたいと思えます。

必ずこうした弊害あるいは課題があるということではなく、可能性があるということ整理していただければと思います。

(委員)

分かりました。適切な表現が見当たらず、失礼しました。

(委員)

先ほど、1学級当たりの人数が10人以下だとの話がありましたが、大学で教壇に立つ者の経験に基づいて意見を言います。

学生が20人を超えると誰も発言しなくなりますが、逆に10人以下だと活発に意見交換ができるので、少人数の方が教育効果が高いと思います。少人数であることで、一人一人の責任の所在が明確になりますので、大人数の環境で育った子どもと比べ、必ずしも少人数だから教育環境が悪いとは言い切れないと思いました。

○大堀教育政策課主査（事務局）

今のご意見は、1学級当たりの人数に関する事だと思えます。

事務局が考える適正規模は学級数のことで、クラス分けができる程度の1学年の規模を持ち、こうした多くの子どもたちの関わりの中でさまざまな学びをしてもらいたいということです。

また、1学年に複数の教員がいることで、学年の運営を1人の教員に負わせることなく、さまざまな相談をしながら運営できる点もあります。

加えて、公立小学校ですので、どこの地域でも一定程度の教育環境を維持できるように整備していきたいと考えています。

今の1学級当たりの人数の話と1学年当たりの人数の話とでは、違いがあるということを確認していただきたいと思えます。

(委員)

その点は分かります。複数の学級があった方が選択肢も多く、意見が平均化するメリットもあると思えます。

ただ、少人数ならではの良さもあることも主張しておきたいと思えます。

(委員)

先ほど頂いた学習指導要領に関連する意見についてですが、同じく教育に携わる者としても、本当にその通りだと思えながら聞いていました。

私が走水小学校に着任してから、走水地域の環境に感動した部分もあります。走水の良さをどのように生かしていくかについて、今年度の学校の重点として取り組んで行く旨を話しましたので、本日はその中で紹介させていただきたいことがあります。

走水には水源があり、そこへ水をくみに来る方が多く訪れますが、横須賀の湧き水ということで走水小学校の6年生がそこに興味を持ち、走水の水を商品化する動きが出てきています。

具体的には、横須賀市上下水道局に走水を売り込んだり、水を飲み比べたり、水をくみに来てる方に話を伺ったりする形です。

学校で販売はできませんので、現在は、会社を経営している走水小学校の卒業生に協力いただき、商品化の実現に向けて動いています。

そのようなこともあり、地域の教材を探しつつ、児童が主体的に課題を持って取り組めるような教育を目指しているところです。

ただ、私が懸念しているのは、資料4の2ページにある走水の推移についてです。

20年前の年少人口は433人であったのに対し、今年度は130人となっており、このような状況になると、さらに工夫した教育をしていかなければいけなくなります。

このような状況下でも最善を尽くす考えですが、同時に、走水地区の児童数も増えてほしいと望んでいます。

(委員)

本日、横須賀ワンダーランドというホームページを見ましたが、最初のページに走水神社の写真が掲載されており、走水に重きを置いてくれていると思いました。

さて、本日の新聞に、鉄道が開業してから150年という記事がありました。

今から150年前は1872年ですが、走水小学校は1873年開校ということで、市内でも2番目に古い創立年となっています。これだけの長い歴史を持ち、多くの卒業生を出した小学校ですので、走水小学校を統合しようとはなかなか言いづらいというのが正直なところです。

そのような中、走水地域の皆さまが、走水小学校と馬堀小学校との統合についてよく理解できていない現状がありますので、11月26日(土)に、走水小学校の校長先生に許可を得た上で、走水小学校にて説明会を開催することになりました。市教育委員会が本説明会の開催依頼を承諾していただいたことについて、この場を借りて感謝します。

本説明会では、市教育委員会に検討の方針を説明していただいた上で、走水地域の皆さまからの率直な意見を聞く良い機会にしたいと思いますので、よろしく願います。

○大堀教育政策課主査(事務局)

保護者を対象に実施したアンケートについて、具体的なご意見はどのようなものがあつたのかを教えてください。特に、統合について「良い」と答えたのが7人、「良くない」と答えたのが13人という部分についてお願いします。

(委員)

直接集計したわけではないですが、統合について「良い」と答えた方の中でも、通学について不安に思う意見もありましたし、スクールバスの手当の有無を気にする意見もありました。また、同様の意見は「良くない」、「わからない」と答えた方にもあ

りましたし、「わからない」と答えた理由に、スクールバスの手当次第になるため「良い」、「良くない」のどちらも言えないというものもありました。

このことから、賛成か反対を問わず一番の課題が通学であると言えます。走水における海岸沿いの3kmは、通常の通学距離の3kmとは訳が違いますので、子どもの通学を不安に思う方が多かったと思います。

また、友達が多い方が良いと考える意見も多かったですし、それ以外にも、教育費がかかり、その上で児童数が少なくなっている現状があるならば、小学校の統合もやむを得ないという消極的な賛成意見もありました。

一方で、統合は「良くない」という意見について、走水小学校は地域とつながっており、アットホームな場所を残してほしいという意見もありました。やや感情的な意見ではありますが、こうした地域のつながりは大事だと思っています。

なお、今話した内容は、手元に詳細の資料がありませんので、私が記憶している限りのものになります。

○大堀教育政策課主査（事務局）

本協議会は、基本的には意見を頂く場であり、この場で頂いた意見については、審議会にて方策の検討を行い、最終的には教育委員会が決定することになります。

つまり、ここで頂いた意見について対応策などを検討する形になりますので、さまざまな状況を想定していただき、こうした場合にはこのような懸念事項があり、対応策が必要であるという形で意見を頂かないと、検討の対象になりません。

今のアンケート結果について整理しますと、まず、小学校の統合に関して一番対策が必要とされる点が通学の手当であることと、小学校が地域の活動拠点になっていることを踏まえた対応が必要であることの2点だと思います。

こうしたご意見を盛り込みながら、本協議会での意見を整理していきたいと考えています。

（委員）

通学についてですが、以前、走水の水源地を車で抜けてきた際に、波が歩道まで上がってきたことがありました。子どもがその波にさらわれることはないと思いますが、あの歩道を子どもに歩かせるには不安に思います。

（委員）

資料2に市内の小学校の最長距離が3.9kmと記載されているのを見て、かなり遠いように思いました。現在、通学補助を出しているところはあるのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

現在、通学の手当てを出している学校はありません。

（委員長）

通学について委員の皆さまに伺います。

中学校まではどのようにして通学していましたか。

（委員）

中学時代はバスで通学していました。

クラブ活動があって帰りが遅くなるので、周辺が暗い中を徒歩で帰るには厳しいと思ひ、バスを利用していました。

（委員）

私の知人もそうでしたが、中学生もバスで通学だったと思います。

中学生でさえバス通学している現状ですので、小学生が歩いて通うことはないと思ひます。その際に、バス通学への補助が出るのかどうかなどについて、この場で質問をしていくと良いと思ひます。

○飯田教育政策課長（事務局）

資料2にもありますように、小学校と中学校の最長距離がそれぞれ3.9kmと4.6kmということで、非常に長い距離を通学していただいているところもあります。

馬堀中学校の最長距離は3.3kmであり、その中でもバスで通学している生徒数が13人と多くの生徒がバス通学している現状があります。

現在、このようにバスで通学している方への補助は行っていませんが、教育環境整備を考えたときに、教育環境が変わっていく中でどのような在り方が良いのかについて議論をしていただいた上で、審議会にお伝えしていきます。

これらに関する予算の措置は、市が最終的に行いますので、さまざまな議論を行ひ、その中で意見交換ができればと思ひます。

（委員）

現在、走水出身の中学生は全員バスで通学しています。

距離上は歩いて行ける距離ですが、海岸沿いを通るのは危険であり心配ですので、市で改善策を考えていただければと思ひます。

（委員長）

バス通学の部分では、通学中に車が突っ込むなどの事故と誘拐等が気がかりです。

現在、アメリカではスクールバスが主流となっています。

アメリカと日本とでは状況が違いますし、すぐにアメリカと同じ段階にしていくのは難しいと思いますが、馬堀地区においては、子どもの足で40分かけて歩いている現状があります。横須賀では前例がないと思いますが、スクールバスについて検討していただければと思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

事務局においても、他都市の事例について調べています。

公共交通機関の定期券を補助する事例と、今お話いただいたようにスクールバスを出す事例もありますので、こうした事例等について研究していきたいと思いますが、こうした意見を頂ければと思います。

（委員）

同じ幼稚園出身であり、走水小学校に通う子どもの保護者との話の中で、低学年の児童に路線バスに乗せて通わせることを不安に思う声を聞きます。

自分の場合は、途中で走水に引越したこともあり、上の子は学区外通学という形で、走水から馬堀小学校まで通っていますが、走水のバス停付近に信号がないので、路線バスでは安全面で不安です。付近に歩道橋がありますので、子どもにはそこを渡るように伝えていますが、歩道橋まで行くのに一度逆方向へ戻らなければならず、子どもが面倒くさくなって信号がない横断歩道を渡ります。車道を通る車もかなりの速さで走るの、どうしても心配になります。

馬堀方面から来るには、このような道を歩くことになるので、スクールバスか路線バスかどちらにしても、安全面での検討が必要だと思っています。

（委員）

小学校の統合の話に関係なく、あの道路は自分も危ないと思っていました。今こうした意見がありましたので、信号の設置については、連合町内会長を通じてお願いしたいと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

信号については警察の所管となりますが、必要に応じて対応を検討していきたいと思っています。

なお、毎年実施する通学路点検を通じて、学校からの意見を基に危険箇所を把握し、対応策の検討を行っています。この通学路点検の中でもこのような不安な点があれば、ご意見を頂き、可能な限り対応していきたいと思っています。

○古谷教育総務部長（事務局）

今、事務局提案の案1についての懸念事項として、通学に関するご意見を伺いましたが、案2という形で走水小学校を残した場合の懸念事項がありましたら、教えていただきたいと思います。

このように申しますのも、現在、走水小学校の児童数は50人を下回っていますが、平成16年度までは150人以上の児童がいました。

ところが、平成25年度に100人を下回り、平成28年度頃から50人前後という状況が続いています。

先ほどにも人口に関する話がありましたように、今後は児童数の増加がほとんど見込めず、今よりもさらに減少していくことが考えられます。

現在の通常学級は、1年生が3人、2年生が5人、3年生が9人、4年生が5人、5年生が7人、6年生が12人という状況ですが、これまでの走水小学校には、学年が上がるにつれて、転勤等の理由により児童数が減少する傾向がありました。現在の低学年はすでに極めて少人数であり、このまま何も対応しなかった場合、今よりも児童数が減少するものと思われるので、このことについて心配な点と意見を頂きたいと思えます。

（委員）

数年前、防衛大学校を山口または広島へ移転するという話があったと思えます。

もしこの話が実現した場合、防衛大学校の跡地にマンションもしくは住宅地ができることで、その大半が馬堀小学校や馬堀中学校へ通うことになるとしても、中には走水小学校へ通わせてもいいと考える家庭が出てくる可能性があると思っています。この件について、何か動きはありますか。

もう1点、前回の協議会で県営住宅をリノベーションする話について報告していただいたと思えます。

現在、この辺りは高齢者が多く住んでおり、治安もあまり良くないイメージがあります。ただ、走水は海が近く、隣には横須賀美術館もあるということで若い人が入ってきて、結果としてこうしたイメージが払拭されるかもしれないと、個人的には考えています。

○古谷教育総務部長（事務局）

1点目の防衛大学校の移転に関しましては、首都機能の移転の一環としてこのような話があったことは事実です。当時は私も防衛大学校へ出向き、この件について意見交換をしたことがあります。当時も現在もそのような動きは全くありませんし、将来においてもないと思えます。

2点目については、日本全体で人口減少と少子化が進んでおり、子どもを産む女性

も減っていますので、少子化はかなりのスピードで進んでいくと思います。県営住宅がリノベーションされることがあっても、劇的に子どもが増えることはないと思います。

(委員)

人口減少と少子化の話が出ていますが、そもそもここで言う適正規模とは、ベビーブームがあった当時を踏まえたものだと思います。今後、それを変更する予定はないのですか。

○大堀教育政策課主査(事務局)

昨年策定した教育環境整備計画に基づいて検討していますので、基本的には変える予定はありません。

(委員)

統合を繰り返して学校数を減らすことになるのでしょうか。

○大堀教育政策課主査(事務局)

統合は、あくまで方策の一つです。

(委員)

教員をされている方に伺いたいのですが、走水小学校の教育環境はどうですか。

○米持学校教育部長(事務局)

走水小学校には何度も訪問していますが、大変良い環境だと思います。

私は横須賀の出身ではなく別のところですが、そこにも山、川、海があるような環境でした。

そうした環境に勝るくらい良いのが、走水だけではなく横須賀市全体だと思います。どの学校も自然豊かで自慢できることがたくさんありますし、さまざまな環境が用意されているのが、横須賀市の学校だと思います。

走水小学校はとても良いところですし、そこに愛着があれば離れたくない、なくしたくないという気持ちは分かりますが、事務局がこのような提案をする背景には、走水小学校の1年生が3人しかいない現状があります。

休み時間では、違う学年の子どもたちと遊ぶこともあると思いますが、学校生活で一番長く過ごす時間は授業です。残りの5年間をこの3人だけで過ごさせていいのかと思いますし、横須賀の教育をつかさどる業務に当たる者として強い危機感を覚えています。

これは走水小学校に限らず、他の学校でも小規模の学級を組んでいるところもありますので、ここも含めて考える必要があると思います。ただ、1、2人といった極めて少人数という環境を6年間も続けさせることはできないと思いますので、こうした環境を良い方に向けて考えていきたいと思い、提案しています。

(委員)

1年生が3人という状況は知っていますし、年中の子どもが小学校に上がる頃には、今より少なくなっているかもしれないという不安はあります。

ただ、やはりあの走水の環境で成長してほしい思いはありますし、人口が増えて走水小学校に通う子どもが増えれば、走水小学校を残せる可能性も出てくると思います。

以前も言いましたが、小規模特別認定校制度を導入することで、不登校の子どもたちの居場所になればと思います。

走水の環境は本当に素晴らしいです。実際に走水の海で活動している方からもそのような話を聞きますし、自分の子どもも、走水小学校へ通わせられるなら通わせたいという方もいました。

人数がこれだけ少ないのであれば仕方ないとは思いますが、何とか走水小学校を残す方法があれば強く思います。

また、市は海洋都市横須賀を掲げていると思いますが、先ほど話にもありました馬堀小学校のキャンプの件と走水での貝拾い等ができる環境について、それらを教育の分野からなくしてしまうのは違うと思います。児童数が減少したから学校をなくすのではなく、どのようにしたら児童数が増加するかを考えて動くことは難しいのでしょうか。

○米持学校教育部長（事務局）

少し発想を変えてお話しします。

私は、走水小学校がなくなると、走水の良い環境がなくなるとは思いません。このような素晴らしい環境と走水に住む方々のつながりは、走水に住む方々がいらっしゃる限り続くでしょうし、こうした環境も守られていくと思います。

仮に走水小学校の児童が馬堀小学校に通うことになったとしても、馬堀小学校の児童として走水の自然環境を生かした教育は十分可能ですし、先ほどの大塚台小学校の児童が漁師のところへ見学に来るといった話がありましたが、こうした環境は横須賀の宝だと思っています。

走水小学校がなくなればこうした環境もなくなるということではなく、多くの皆さままでこの環境を共有できるような場所があれば良いと思います。

(委員)

今まで学校が統合されて残ったところは、売却されて新しい建物が建つという状況になっています。

走水地域の住民としては、走水小学校が売却された後にリゾート地のようなものができた場合、近くに海をはじめ自然環境があることを踏まえると、寂しい気持ちになります。

例えば、走水小学校の跡利用の目的が、教育活動と地域活動などであれば話は別ですし、このような使い方をする可能性があると言っても、最終的に、地域住民が思っているものとは別の形で使われることになると、自分は受け入れがたいと思います。

(委員)

今、走水小学校が震災時の避難場所として指定されています。

先月になり、ようやく町内として避難所運営委員会を立ち上げまして、その中で物資のある場所と津波警報が解除された場合の動きなどを決めています。このような形で活用をしていますので、将来においても同じような形で活用していければ良いと思います。

○大堀教育政策課主査(事務局)

仮に走水小学校がなくなった場合に、地域活動の拠点と避難所等としての場所がなくなることを心配されているということですか。

(委員)

もう1点あります。

別の委員からも話がありましたように、小学校がなくなった後の地域には勢いがなくなっているということがあります。例えば、小学校低学年の児童がランドセルを背負って歩くというような光景が見られなくなり、地域の活力の場が失われます。

また、走水小学校は来年で150周年を迎えます。こうした歴史の重さを考えると、地域住民の一人として、馬堀小学校との統合は何となく受け入れがたいというのが本音です。

(委員)

その通りだと思います。

先ほど学校教育部長からの話で、走水小学校がなくなっても、自然豊かな環境の中でこれまでと同じように漁師や他の地域の皆さまとつながりを持つことができるということですが、これは少し違います。

走水小学校は、常に周囲の方々と触れ合ってきた実績が150年あるからこそ、今の

教育ができていると思います。

先ほど大塚台小学校の件を例に挙げましたが、これも、走水小学校に携わる方を通じて教育が行きわたっているわけです。

走水小学校がなくなってから今と全く同じような形でできるようになるまでには、相当な長い時間がかかると思います。走水小学校だからこそ、こうしたことをやってあげているという地域の方々の強い思いがあります。

また、教育総務部長が、児童数は減る一方であるということですが、今提示されている人口の推計資料を見る限りでは、若干ながら増えているように読み取れます。

○大堀教育政策課主査（事務局）

あくまで推計ですので、転出の部分を正確に出すことが難しい部分があります。

走水小学校には、学年が上がるにつれて転居していくという特色があり、結果、推計で出した人数よりも少なくなるという傾向があります。

（委員）

あくまで予想ということで、子どもの人数が減る一方ではないかもしれないということですね。

○大堀教育政策課主査（事務局）

全国的な傾向や横須賀市の現状を見ても、子どもの人数が減る可能性が高いです。

（委員）

それでは、推計の人数を多めに出している理由は何ですか。

○飯田教育政策課長（事務局）

ここで言う推計とは、例えば、現時点で小学校1年生が5人だった場合、その5人がそのまま2年生に上がるという想定で推計をしています。

ちなみに、現在の走水小学校の1年生は3人ですが、今の1年生が1歳だった平成29年度の走水地域の1歳児人口は17人でした。

あくまで推計ですので、このような形で人口推計をしているということです。

（委員）

推計の出し方については分かりました。

ただ、我々は推計の出し方を知りませんし、今の資料に出ている数字を基に話をしています。後からこういう形で言われても、我々には分かりません。

また、走水の特色という話がありましたが、ここ数年で、防衛大学校の転勤のスパ

ンも変わってきていると思います。こうした関係で1年生が少なくなっていると思いますし、今後、転勤の部分で何らかの変更があれば、推計で示される人数も変わっていくのではないかと思います。

(委員長)

そろそろ終了の時間が近づいてまいりましたので、意見と質問はよろしいですか。

(委員)

別の委員から、走水小学校において特色のある教育をしているという話がありましたが、以前、走水地域の回覧板にあった学校だよりの中で、ホタルの里の活動を目にした際、これは走水でないとできないことで良いなと思いました。

また、協議会の冒頭で馬堀小学校のキャンプに関する話もありましたが、昨年度は走水水源地の公園がオープンしたということで、総合学習の一環として、公園のポスターの作成と公園内の樹木へのプレートの設置などの活動が行われました。馬堀小学校の子どもたちも、走水地域に関心を持っているなと思いました。

仮に小学校を統合した場合ですが、走水小学校という名前がなくなったとしても、走水小学校の子どもたちと同じように走水の子もいますし、走水地域に関心を持つ子どもたちも多くいるという目で見ただけなら良いなと思いました。

ホタルの里についてですが、去年の夏に市の博物館へ行ったときに、ホタルの保全活動に関する展示スペースがありましたが、その少なさに驚きました。その中でも、こうした活動をしている走水小学校は、横須賀でも貴重な存在だと思います。

仮に走水小学校を統合したとしても、その学校があった土地を売却してしまうのは残念な気がしますし、走水地域の観光と歴史、教育的価値などを踏まえて、走水小学校の跡利用を考えていただければと思います。

(委員長)

ここで話し合われた内容について、事務局の方でまとめていただき、次回の資料として、提示してください。

それでは、協議については、ここまでとします。

本日本日予定をしておりました議事を全て終了しましたが、全般的なことでご質問やご意見はございますか。

よろしいようですので、これで第3回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会は終了とし、進行を事務局へお返しします。

○飯田教育政策課長（事務局）

委員の皆さまありがとうございました。

それでは、事務局から連絡事項についてご説明します。

次回の開催は1月下旬を予定していますが、この場にて、皆さまのご都合を確認したいと思います。

《 次回の開催日の確認 》

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、次回も19時から大津コミュニティセンターにて開催します。

具体的な日程については、本日欠席の委員もいらっしゃいますので、後日改めてご連絡いたします（※）。

次に、本日の会議録についてです。

確認用の会議録が作成できましたら、お送りします。内容をご確認いただき、修正がある場合には、送付文に記載の期日までに、事務局へご連絡ください。修正しました会議録を皆さまへお送りし、ホームページ等で公開します。

よろしくお願ひします。

スケジュールについて、ご質問がありましたら、挙手をお願いします。

ご質問等がないことを確認しました。

委員長、委員の皆さま、ご協議ありがとうございました。

以上で第3回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会を終了します。

※後日、令和5年1月23日（月）19時から開催することを決定した。

以上